

同窓会報

No.82

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

〒510-8027
四日市市茂福65
TEL <059> 365-3631

印刷
(株)東海フォトデザインシステム



ふるさとへの想いとカーボンニュートラル

同窓会長 種橋潤治
(四高43年度卒)

物心ついてからの様々な体験に結び付く情景がいつまでも記憶に残り、年を経て懐かしいという感情がより高まって来ます。ふるさとへの想い、いにしえの物事・史跡への憧れは誰もが持っていると思います。四日市高校の同期の友人と会うと、高校時代の体験や環境は共通のことが多く話が弾むのは自然の成り行きでしょう。世界遺産の制定、インバウンドの観光客が日本の自然や伝統的な行事、歴史的建造物に興味を持つことをみれば、こうした思いは人種・国籍に関係ないと考えられます。そして、こうした想いの対象になるものの背景には自然環境や人々の営みが深く関わっています。

います。地球温暖化への懸念が議論され、対応を進めている間も温暖化は進み、様々な場所ですべて普通にあつたものがなくなっています。自然の恵みでは、果物、野菜、花卉の生育障害や品質低下、長期的には栽培適地の変更等、また水産物では伊勢えびやアワビ等の漁獲量の減少、養殖における新たな課題の浮上、漁場の移動等、挙げればキリがないと思います。ホテル観賞、花火などの夏の行事、学校での部活動も制約を受けることが増えてくるでしょう。自然災害のリスクの拡大も懸念されます。

多くの人が、いつまでも史跡、歴史的建造物、自然を楽しむことが出来るようにしていくために、

「私も四高の卒業生なんです。四高生、頑張ってますね、応援してます。」

たくさんの方から、ありがたいお言葉をかけていただきます。同窓の皆さまや地域の皆さまにご理解とご支援を賜りながら、本校の教育活動を進めることが出来ますことに、深く感謝しております。

現下の世相は、不安定な世界情勢やポストコロナの社会的変容、震災、温暖化の影響など、その激しい動きが加速するばかりです。このような状況下で生徒たちが将来、輝いて活躍するために、知識の基盤となる学力の育成はもちろん、激動する世界の枠組みや、科学、経済等、社会システムの変化の速さに臆することなく、仲間と一緒に、新しい時代の価値や仕組みを創出できる資質の育成が欠かせません。本校の生徒には、いずれ、あらゆる分野で社会をリードする存在として活躍することが期待されま



社会と繋がった教育の実践のために

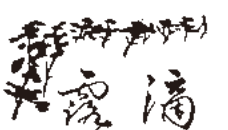
学校長 諸岡 伸

す。だからこそ、社会の最先端の様相、社会的格差や弱者の存在、地方の抱える課題等、現代社会の強みも弱みを知る人であってほしいとも考えています。

そのため、学校は、これまで以上に社会と繋がって、多様な学び、深い学びができる環境を整えなければなりませんし、もはや、学校だけで教育が完結できる時代ではないと考えています。このような考えのもと、四日市高校では昨年から、多様性と専門性を備えた厚みのある教育を実践するために、これまでの大学との連携に加えて、地域の企業や団体の皆さま、行政と積極的に連携し、支援していただきながら、教育活動を進めています。冒頭で紹介した、「私も四高の卒業生なんですよ」は、そういった場面で、思いがけず同窓の皆さまからいただく嬉しい言葉です。

今後、学校はますます、社会と繋がって生きた教育を進める必要があります。四日市高校の強みは、国内外、社会のあらゆる場所で活躍し、生徒を嚮導していただける先輩方があまいたつしやることです。同窓の皆さまの強みそのものが、四日市高校の教育力の強みでありま

す。ぜひご覧ください。)



一力遼という男がいる。日本最強の囲碁棋士である。この男が昨年世界棋戦で優勝した。実に日本勢として19年ぶりの快挙であつた。▼囲碁に興味がない人にはピンとこないだろうが、近年誰が日本代表で出場しても、中国・韓国に敗退するという無様な結果の繰り返しであつた。『応氏杯世界選手権』というこの大会は、四年に一度開催される最も権威ある世界棋戦である。それだけに囲碁愛好家をはじめとする関係者の喜びは大きく、囲碁の総本山である日本棋院の最寄り駅、市ヶ谷には、お祝いの横断幕が掲げられたという。▼囲碁のルーツは中国にあるらしいが、頭脳ゲームとして完成させたのはわが国である。特に江戸時代は、御城碁と呼ばれた対局が盛んに打たれ、隆盛を極めた。▼昭和期に入ると、日本の棋士達は中国や韓国を訪問し、日本の普及を熱心に行っている。その頃教えを受けた日本の棋士は募

う中韓のベテラン棋士は多いと聞く。したがってこの時代に世界戦が開催されれば日本勢の連戦連勝であつたに違いない。▼囲碁を覚えたのはちょうど四高に在学の時であつた。以来五〇年余、濃淡はありながら続けてきた。これほど面白く奥深いゲームはないと思う。ほかの趣味には飽きても囲碁だけは飽きずじつに続けてきた。▼四高に教員として勤務した頃、「四石会」という職場の同好会があつた。場所を借りて泊りがけあるいは日帰りで碁を楽しんだものである。ただひたすら碁を打つという和気あいあいとした会であつた。▼「碁は五歳から」と最近では言うらしいが、老いても若くても夢中になれるのが囲碁である。一度試してみてはいかがでしょう。(青山)

令和7年度 総会のご案内

令和7年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

○日時

令和7年6月7日(土)

13時30分受付/14時00分開会

○場所

四日市商工会議所 1F ホール

○記念講演(総会後)

〈講師〉
心臓外科医

南 和友 氏 (四高39年度卒)

〈演題〉

「医師になって50年間
～ドイツで30年 日本で20年～」

終了後

・記念撮影 ・抽選会 ・ティーパーティー

○付 記

・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。
・講演につきましては一般に公開しております。お知り合いでご興味のあります方にはご案内下さい。

○問合せ

四日市高校同窓会館

TEL・FAX 059-365-3631

Eメール: sikoukai@m2.cty-net.ne.jp

四日市高等学校同窓会HP

shiko-kai.com



受付風景



伊藤前会長へ花束贈呈



総会の様子



懇親ティーパーティー



講師 原 文人氏



出席者記念撮影50年度卒以降



出席者記念撮影49年度卒まで

令和6年度総会は、6月1日（土）四日市市総合会館に於いて開催されました。出席者は51名で、藤原副会長司会の下、まず伊藤会長より出席者に日頃の同窓会活動への協力のお礼、そしてご勇退なさるにおいて新体制へのさらなる協力の要請が述べられ、次いで諸岡校長が学習だけでなくリーダー育成のための教育活動の様子や成果を報告してくださいました。

- その後田中常任理事を議長に議事審議が進行し、青山副会長から会の運営について報告と計画案が提出され、佐久間会計が収支報告と予算案を提案し審議されました。続いて四高54年度卒原文人氏による記念講演を拝聴、記念撮影、ティーパーティーへと進行しました。
- 議 事
- 第1号議案 令和5年度事業報告
 - 第2号議案 令和5年度収支報告
 - 第3号議案 令和6年度事業計画
 - 第4号議案 令和6年度予算
 - 第5号議案 役員改選

記念講演

近鉄で長年職務に勤しまれた原氏は、その後三岐鉄道北勢線等ローカル線の存続と活性化に向け勉強会を重ねる中で、鉄道の受益者は利用者だけではなくたことに気付かれ、ローカル線こそ地域観光の核となるべき存在であると、わかりやすく、しかし力強く話してくださいました。車社会に生きる私たちの意識に一石を投じてくださる講演であったと感謝いたします。

令和6年度
四日市高校同窓会総会報告

記念講演 原 文人氏（四高54年度卒）

『車を持たない人でも便利に暮らせる街にしませんか？』

令和6年6月1日
四日市市総合会館

令和6年度 役員及び常任理事		会 長		副会長		顧 問		書 記		会 計		監 査		常任理事		☆印は新任																																																																																																				
☆種橋	潤治	四高43	西脇	壽郎	四高43	杉本	雅俊	四高43	青山	三晶	四高43	日比	義三	四高43	伊藤	重和	四高43	下田	典史	四高43	藤原	和彦	四高43	佐々木	薫子	四高43	野呂	純子	四高43	岡田	卓也	四高43	熊澤	誠一郎	四高43	伊藤	勘作	四高43	諸岡	伸	四高43	富田	常豊	四高43	小林	典之	四高43	大森	智之	四高43	辻	康之	四高43	佐久間	憲一	四高43	前田	憲一	四高43	須藤	康夫	四高43	小森	智	四高43	森	春美	四高43	山本	将子	四高43	三輪	利美	四高43	北川	博嗣	四高43	小津	統治	四高43	八木	益彦	四高43	水谷	益彦	四高43	井ノ口	勝昭	四高43	小川	硬一郎	四高43	山下	久三	四高43	伊藤	利造	四高43	田中	真司	四高43	井村	正史	四高43	森	公平	四高43	黒木	誠	四高43	稲垣	雄介	四高43	名越	一大	四高43

一般財団法人四高会 令和5年度 収支決算書
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

単位：円		単位：円	
科 目	摘 要	決算額	予算額
Ⅰ. 収入の部			
① 事業収入	会館使用料	14,000	20,000
② 受取寄付金収入	同窓会より	2,500,000	2,500,000
④ 雑 収 入	施設利用料、利息等	24,541	19,122
合 計		2,538,541	2,539,122
Ⅱ. 支出の部			
① 事業費・管理費支出		1,602,467	1,949,000
会議費支出	会議等	33,440	50,000
講演開催費支出	講演会	97,994	120,000
地元協力費支出	十四川の桜管理	50,000	50,000
消耗品費支出	コピー機・事務諸経費	139,081	150,000
修繕費支出	会館修繕工事	82,390	150,000
光熱水料費支出	電気、水道、ガス	364,292	470,000
保険料支出	火災保険料	23,510	25,000
租税公課支出	固定資産税、県・市税等	447,300	500,000
清掃費支出	環境整備等	115,500	120,000
支払負担金支出	商工会議所会費	14,000	14,000
雑費支出	備品処分費、報酬等	234,960	300,000
② 投資活動支出		800,000	800,000
修繕引当資産取得支出	会館修繕目的	800,000	800,000
③ 予備費支出		0	150,000
合 計		2,402,467	2,899,000
Ⅲ. 当年度収支差額		136,074	△ 359,878
Ⅳ. 前年度繰越収支差額		770,878	770,878
Ⅴ. 次年度繰越収支差額		906,952	411,000

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円		修繕引当資産 (百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円	
次年度繰越収支差額	906,952	前 年 度 末	2,000,017
		今 年 度 積 立 金	800,000
		利 子	34
		今 年 度 末	2,800,051

四日市高校同窓会 令和5年度 収支決算書
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

[収入の部]			単位：円		
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額	
① 同 窓 会 収 入	入 会 金 同 窓 会 費	全日制 1,800円×936人	6,862,800	6,928,000	
		終身(20000)	256	5,120,000	
		10年(10000)	0	0	
		5年(5000)	0	0	
		3年(3000)	1	2,000	
		1年(1000)	56	56,000	
				5,178,000	5,200,000
				18,740	19,655
② 雑 収 益		寄付金、利子・その他	1,292,345	1,292,345	
③ 前 期 繰 越 金					
合 計			8,173,885	8,240,000	

【支出の部】			単位：円	
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額
① 運 営 費	給 事 通	与 給料、手当	1,312,676	1,570,000
		務 備品購入、印刷費、事務用品等	1,030,000	1,100,000
		信 123,510	270,000	
		電話、郵便、インターネット関連費	159,166	200,000
② 会 議 費	総 理 事 常 任 理 事 会	会 会場費、景品代他	216,840	230,000
		会 会場費、会議費	162,744	170,000
		会 45,818	50,000	
		会 会議費	8,278	10,000
③ 事 業 費	会 報 校 活 動 助 成 金	会 会報印刷及び発送費	2,397,397	2,500,000
		激励金、海外研修費補助、本棚寄贈	1,203,397	1,300,000
		(一財) 四高会への寄付金	1,194,000	1,200,000
④ 四高会拠出金			2,500,000	2,500,000
⑤ 積 立 金			800,000	800,000
⑥ 予 備 費			0	250,000
⑦ 次 期 繰 越 金			946,972	390,000
合 計			8,173,885	8,240,000

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円		特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円	
次年度繰越金	946,972	前 年 度 末	64,924,052
令和5年度卒業生 同窓会費 預り金	5,662,000	今 年 度 積 立 金	800,000
今年度末	6,608,972	利 子	1,050
		今 年 度 末	65,725,102

第16回 銀城親睦ゴルフ大会

去る令和6年11月7日（木）四日市カンツリー倶楽部で標記の大会が開催されました。

男子30名、女子5名の合計35名にご参加をいただきました。当日は少し肌寒い陽気でしたがお天気に恵まれ、楽しい一日を過ごしていただきました。

なお、優勝者は次の通りでした。

女子の部 星 珠樹さん（昭和56年度卒）
男子の部 水谷 昇さん（昭和53年度卒）



男女優勝者と会長

第17回 銀城親睦ゴルフ大会の開催について

第17回銀城親睦ゴルフ大会を下記の要領で開催いたします。申し込み方法については、本年も従来通り学年代表理事の皆様方にご協力を願います。

い、同学年のゴルフ愛好家の方々へご連絡をいただき、参加者をお取り纏め願う方法と、連絡が届かない、又この大会を知らないゴルフ同好者の方に参加していただくために、新たに四日市高校同窓会のホームページから「申し込み」ができるよう手続きを進めてまいりたいと存じます。

記

◆開催日 令和7年11月13日（木）

OUT・IN同時スタート（各10組）

◆場所 四日市カンツリー倶楽部

（059-337-1111）

詳細は決まり次第お知らせいたします。

ゴルフ担当 杉本雅俊

事務局からのお願い

銀城親睦ゴルフ大会も新体制となり募集方法に改革が加わり、またこの同窓会報の配布につきましても新たな方法を検討しております。

まずは、住所変更の折にはお知らせください。毎年多数の会報が宛先不明となって会館に戻ってまいりますのは残念なことです。

また、会報不要の方はご一報ください。少し時期が遅れは致しますが、同窓会ホームページ（HP）で過去の会報も併せて閲覧していただくことができます。

いずれも、HP上部の「住所変更・お問い合わせ」からご連絡ください。

その他、学年同窓会開催情報や写真も送付いただきましたらHPに掲載させていただきますのでご活用ください。



同窓会HP

お知らせ

藤原和彦副会長が令和6年秋の褒章において黄綬褒章を受章されました。おめでとうございます。

お悼み

赤根孝一 先生

令和6年1月ご逝去

母校百周年時に校長として各種記念事業の遂行にご尽力くださいました。ここに哀悼の意を表しますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

令和6年度会費納入者

（敬称略）

○終身会費（2万円）

有竹紗璃、石田琉里子、上出眞和、上村基士、梅本陸、大勝雄介、大貫遥琉、大平菜月、大森柊哉、小川恵梨菜、萩原梨緒、北岡佳奈、木村美海、坂口茉優、白井優羽、鈴木正一朗、谷口未音、中岡文菜、永野拓人、中森乙嘉、西田万穂、野田詩央里、樋口栄飛、樋口煌大、藤丸嘉乃、松井司、松田大河、三浦蒼大、三木智恵、柳川優空、山川乃愛、八巻遥香、山田絵里加、吉村唯花、渡部綾梨、石垣芽依、伊藤優、井上慶吾、浦野友羽、小笠原伊吹、小川竣太郎、尾崎史佳、影山真佳、北野花、金城由伸、沈佳恩、竹森陸太、田中秀幸、田伏七海、寺田秀哉、中嶋太一、萩原睦、萩村栞愛、前田優那、増田美羽、松井優磨、松岡那歩、松田茜、水谷吉朋、石垣良磨、伊藤大晴、大久保陽奈子、小出浩暉、小林姫菜、佐伯安澄、阪田直太郎、佐藤隼磨、高梨颯、西野亮、平山一瑛、松浦綾花、松永美風、南龍輝、山岡水葉、伊藤綾梨、伊藤定翔、猪股碧唯、大畑翔太郎、河村悠介、小倉悠幹、小山実桜、坂井一貴、佐藤凡乃佳、澤田琉、杉内美咲、杉浦結萌、田木美羽、田口竣一、田中直哉、玉井花奈、内藤舞奈、中野真菜、中村登和、西塚ゆづ希、則武昌季、長谷川愛奈、伴野優貴、福井真帆、福田黎太、松崎衣真、松森息吹、水野昂、森悠惺、森上達貴、森本そよ、矢橋慶大、横山千華、鷺野由季、石垣有唯、伊藤司、伊藤美有香、井上月、小川修司、鏡史佳、國分惺衣、近藤成真、澤田陽菜子、城英万里、庄山鈴、鈴木優斗、祖父江英孝、寺田和奏、轟裕紀、

富永陽翔、中村ひな、成沢嘉晟、生川拓翔、西澤汐音、西出羽華、丹羽啓仁、濱鉄嵩、広沢流菜、福島菜々、藤井拓海、藤嶋百花、棒谷遙斗、星大翔、松浦帆高、松谷祐輝、宮部仙士、森本百花、山北みお、山本聡一、山本美里、赤坂知穂、浅野芽久実、池村知華、伊藤玄貴、伊藤悠杏子、岩田壮真、糸内瑞生、黒田美緒、坂倉光祐、坂部希々、佐藤悠、沢村龍空、軸原大翔、瀧川笑蓮、館優介、中津佑月、原滉樹、平尾侑士、藤田和芭、松本琉杏、水谷勇仁、山路健斗、山田悠生、依、脇山真琉、響庭輝、青木煌太、渥美依知乃、阿部幹斗、伊藤彩花、入山葵衣、大岩さくら、大澤圭吾、大湊航太、片浦葉日夢、片岡怜優、加藤葉音、金田透真、北澤樹明、北谷尚史、久保田薫、坂上瑠依、佐藤心香、實川栄佑、谷海音、西井晴菜、橋本知沙、林勇輝、日置恭輔、福田惺七、堀内暖琉、松井志帆、水谷然、宮崎草太、宮西沙和、村田雄理、本巢凌久、森華奈子、山原心琴、湯本陽香、葉家玗、横山万綾、稲垣光祐、大窪珠莉、沖玲於奈、笠井奏良、勝田ちゅら、加納希望、北出実衣那、木納俊介、木村好花、河野野意、駒田陽紀、坂倉花穂、鷺山葵、佐々木麻紘、柴田祐治、清水一真、神保愛莉、鈴木伶菜、孫源、竹神真央、田中大翔、谷謙伸、徳久暁士、殿内健太郎、長野壮太郎、中村心春、成田浩輔、西川瑚子、林菜名子、東山修也、平野泰希、松井未来、三島早絢、水野紗希、望月理沙、森智佳子、山口魁仁、山田明依、吉田菜月、新井香保、伊藤萌奈、伊藤瑠美、井上優菜、加藤颯人、紀平莉里、窪亮太、阪凜太郎、佐藤和奏、佐野来羅、杉村大樹、西山知佐、西山和果、萩村菜愛、林歩紀、廣森響、堀川葵、前田陽香、松

瀧流聖、宮崎孝一朗、森愛由菜、山路貫太、太田琥士朗、落合和真、鬼塚来琉、叶勇飛、川瀬寛翔、瀬津有梨、竹村栞、土岐京輝、豊田陽大、生川美希子、西川佳太、長谷川あゆ、平畑凜和、水谷理夢、山岡優希、山口慶太、山本雅大、吉田光太郎、後藤有紀

○1年会費（千円） 51名
（令和7年1月末現在）
会員の皆様、誠にありがとうございました。

会費納入のお願い

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお願ひ申し上げます。

◆納入金額

終身会費 2万円
毎年納入の場合 年会費 1千円

◆納入方法

①郵便振替 口座番号 008201816367

三重県立四日市高校同窓会 ※手数料は同窓会負担でお振り込み下さい。

又、振込用紙ご希望の方はご連絡下さい。お送り致します。

②現金書留

会館迄ご送金下さい。

《お問い合わせは同窓会館まで》

059-36513631
sikoukai@m2.cy-net.ne.jp



傘寿記念の同窓会

四ッ谷 昌彦

（四高37年度卒）

コロナがやっと落ち着きを見せ各学年の同窓会が再開しつつあります。

37年度卒の同窓会、30数年ぶりにもう最後の同窓会？存命確認の同窓会などと揶揄しながら重い腰を上げた数名の同志が居酒屋で酒を飲みながら集まった

その中で39名の物故者、8名の行方不明者が判明しました。祝う会は卒業以来、60余年、懐かしさと感動の再開に楽しく、あつという間の2時間でした。参加者は何と驚きの80名、数字の魔術の驚きと感動を全員で共有するひと時でした。

宴会では当時の写真集などメンバー自作のスライドが上映され、在学当時の合唱コンクールの課題曲浜辺の歌と故郷の全員合唱、最後は校歌斉唱で幕を閉じました。

終宴後には母校訪問、市内観光のバスツアーが企画されポー

トタワーの夜景を見てホテルに戻り、そこから2次会に合流と企画満載の記念すべき同窓会となりました。

最後の同窓会と思いきや次は88歳、米寿を祝う会で再開を約束し散会となりました。

私の下に帰ってくる往復はがきやメール交換のなかではハガキの返事欄に何度も書き直した跡、返信は欠席でした。

メール交換では体調すぐれず断念、連れ合いの介護などなど、我々の年代がもう終活の真つただ中にいる自覚を悲しいかなひしひしと感じる数か月でした。

これで最後と奮い立つての参加者、ばりばりの元気者、会はそんな思いの交錯する深い思いで和気藹々の内に静かな盛り上がりを感じる時間でした。
（同窓会 傘寿を祝う会 幹事）



ゴルフ第三章

星 珠樹

（四高56年度卒）

30歳を過ぎて初めてゴルフクラブを握った。関与先でゴルフの話が出ると全く会話についてゆけず、このままではマズイと思ったのがきっかけだ。当時四日市の税理士会には女性ゴルフアーがいなかったため、男性先輩方は「いくつ叩いてもいいよ」と初心者の私を暖かく見守ってくださった。おかげで少しずつスコアも縮まり、いつしかゴルフが大好きになっていった。しかし訳あって40歳でゴルフを離れる。

緊張で震えた。クラブにはシンドルハンディの女性が数名いて、彼女達はプレーもマナーもウェアも素敵だった。いつかは私も彼女達のようになりたいと、クラブ競技に没頭していった。その後、クラブ外の競技にも挑戦するようになった。外にはとんでもなくすごい方が大勢みえるので、私の場合は挑戦というよりもただ参加しているにすぎないのだが、参加できるようになったことが嬉しかった。

「かも」と一縷の望みをかけて競技に出続けた。初めてゴルフを苦しいと思った。勝手な動きをするパター、ひどいスコア、心が折れそうだった。もう無理だとあきらめかけていたある日、少しイップスが治まっているような気がした。回りも「今日はグリーンで挙動不審になっていない」と言う。奇しくも今年のクラブ選手権前だった。以前より少し治まったとは言え、今もパターイップス継続中だ。イップスの重度軽度は日替わりで、当然スコアも日替わりになる。最近では、完全に克服するのは無理だと悟り、うまく付き合っけてゆくしかないのだと開き直っている。

一念発起して競技ゴルフを始めたのは、50歳だった。10年間のブランクがあつたし、ろくにルールも知らなかったので、初めてクラブ競技に参加した時は

3年前のクラブ選手権直前、突然パターイップスが襲ってきた。もがき続けた。パターをマレットからピンへ替えた。中尺を使ったこともある。ひたすらパターを打ち続けた。「今日治



素晴らしい校歌 指摘を受けて再認識

奥村 満富

（四高31年度卒）

四日市高校の校歌は素晴らしい。特に歌詞は最高だ。

「地球を巡る潮の音…」と、冒頭から気宇広大だ。伊勢湾という日本の一部ではない。太平洋ですらない。『地球』を巡る『潮』である。それを胸に秘めて学ぶ者に、深遠な理想を抱かせる。明日の郷里に平和をもた

らせたい。

二節には「ひたすらに真理求むと進む…」と、学びの姿勢を謳う。ただ単に机上で知識を得て、方式を覚えるだけでない。深奥の真理を究めるために学ぶのだ。

「新しき文化日本を創り成さん…」は、三節で唱える決意だ。

往 来



日本の伝統と酒造り

山中 洋祐

（四高57年度卒）

気が付けば私も昨年に還暦を迎えましたが、今も京都の「酒造り」会社で現役のサラリーマンをやっています。

私の出身は川原町で、東の方角にモクモクと煙を吐き出す赤白の煙突や巨大ろうそくのように先端から炎を噴き出す銀色の

煙突を眺めて育ちました。

高校卒業後は1年の猶予を経て京都の大学に進み、学生時代は剣道と麻雀ばかりしていました。が、卒業後は酒が飲めるという動機で京都の酒造会社の仕事に就きました。研究職の真似ごとや製造現場での経験を経て、

29歳の時に米国の子会社へ出向することとなり、米国では「酒造り」の責任者として約7年間仕事をしました。この間は京都の酒蔵では感じる事ができない貴重な刺激を受けた期間でした。

90年代中頃の米国カリフォルニアの雰囲気は今とは少し違うのかもわかりませんが、アメリカ人の同僚の多くは底なしにポジティブで少しできれば何でもできると自信を持ち、また、日

学制改革直後の新設学校ならではの気負もあるが、『正義と自主と信念を』と、高らかに宣言する。

拙文の書き出しの二行は、同窓生ではないある人が、四日市高校に通わず子息から聞き知り、漏らした感想だ。卒業後六十数年を経て、改めて校歌を調べみて、合点せざるを得なかった。

高校野球の勝ちチームの校歌がテレビで流れる。中には共感できる曲や歌詞もあるが、素晴

らしいと称賛できるほどのものはない。多くは立地や校風、伝統などを誇り、校名を強調する。

母校の校歌には「四日市高校」の校名が登場しない。この地方ならどこの学校の校歌にもなり得る『普遍性』も備えている。さすが佐佐木信綱先生である。

曲調は「親しみやすい」「覚えやすい」「元氣が出る」しか述べる能力がないが、宴席などで他校出身者らが口ずさむと嬉しくなる。弘田龍太郎先生に感謝する。



陸上部から馬術 「初老ジャパン」へ

加藤良博

（四高47年度卒）

昭和45年（1970年）、練習が厳しいと躊躇していた陸上部でしたが、先輩の誘いで入部したところ、顧問の先生や先輩、多くの同輩に恵まれ陸上部の練習にのめり込みました。顧問の小林英夫先生は四高の先輩で当時28歳、大学時代100m10秒台のスプリンターで学生は歯が立ちませんでした、その大きく楽しい言葉で私達の気持ちも大きくなりました。

冬期練習は大矢知の神社の階段や坂、富田浜でのダッシュ、グラウンドで250m競争とジョギングを1時間ほど繰り返すインターバルトレーニングなど特

に厳しく、また学校内で寝泊まりした合宿で鍛えられたことも楽しい思い出です。

卒業後、先生を慕い先輩たちとOB会を立ち上げ、現役部員の試合応援や元旦マラソン（1月1日の早朝に四高から伊坂ダムまで凍てつく坂道を走り初日の出を仰ぐ。60歳まで走っていました）、1月2日のOB会など長く活動を続けています。

大学では体育会馬術部に入部しました。馬術部は十数頭の所有馬を飼育するため、毎日作業に多くの時間を費やしますが、ここでも元オリンピック選手はじめ素晴らしい先輩や仲間

人物

本の若者より自分の家族や国を愛し、自分の先祖やそのルーツまでも誇りに感じているようにうでした。私はその状況をなぜか悔しく思い、自らも初めて日本の社会や文化、歴史に興味を感じ、日本を見つめなおす機会になったと思います。外から見ると日本は中にいて見える日本とは異なるように感じたものでした。

私の人生の多くを費やしてきた「酒造り」の仕事も今では自ら造りに手を出すことも少なくなり、管理監督者や経営者として

の仕事が多くなりましたが、米や麴、酵母や醪と向き合い、そして仲間と酒を酌み交わしながら、おいしい酒が醸し出されることは楽しく、「酒造り」という日本の伝統的な仕事に関わることができたことをうれしく誇りに思っています。これから私の仕事も「酒造り」の伝統や技術をしっかりと後世に伝えることはもとより、「酒造り」を通して日本の伝統や文化を盛り上げ、たくさんの人に日本の良さを伝えることができればと

思います。昨年12月には「日本の伝統的な酒造り」の技術がユネスコ無形文化遺産に登録されました。これからはますます日本の酒はその伝統を背景に世界に広がっていくことでしょう。

皆さんもたまには日本の神話や昔話、はては古典落語などに出てくる酒の話をあてに、日本の酒を楽しまれてはいかがでしょうか。



「転換期」

近藤博紀

（四高H24年度卒）

母校の四日市高校にて2週間、教育実習をさせて頂きました。久しぶりの母校を訪れると、自身が過ごした教室やテニスコートなど、あの頃と変わらない光景が目の前に広がっており、懐かしさと高揚感があふれてきました。また、私とすれ違う生徒が当たり前のように挨拶をしてくれたことで、改めて四日市高校を卒業したことを誇らしく感じました。

教壇に立つた際は、生徒たちの明るさや学習意欲の高さに大変助けられました。私の拙い授業から少しでも学び取ろうと、多くの生徒がきちんと予習をしたうえで授業に参加してくれました。また、授業中は分からない

いことを質問してくれたり、生徒同士で積極的に教え合ったりする姿が見られました。中には別解を提案してくれる生徒もいて、毎日驚きと感心の連続でした。このような学習意欲の高さが、四日市高校の高い教育水準を醸成しているのだと実感しました。

また、教員の皆様の教育技術の高さや、生徒を思いやる熱意の大きさも実感しました。授業準備の際、授業全体の流れはもちろんのこと、発問内容や生徒からの想定質問まできちんと検討し、少しでも分かりやすい授業ができるよう取り組んでいました。そして、私が高校生の頃はなかったICT教材を積極的に

に活用し、生徒にとって有意義な授業になるよう工夫されました。この経験から、生徒に最善の価値を提供するために、時代の流れに合わせて教員も学び続ける姿勢が大切だと感じました。

2週間という短い期間ではありましたが、大変貴重な経験をすることができました。丁寧に指導して下さった教員の皆様はもちろんのこと、暖かく見守ってくれた生徒の皆様にも感謝の気持ちでいっぱいです。今回の実習を通じて、教員という仕事の素晴らしさを実感できました。私は4月から、他県で高校教師として働きます。四日市高校とも関わりのある高校に勤めるため、今後とも末永くお付き合いさせて頂けたらと思います。今後ともよろしくお願いたします。

リレー随想 〈第28回〉

花まるライフ

はなまっぷ代表

後藤 有紀（四高H10年度卒）



私が四高生だった頃は、ルーズソックスやポケベルが流行りでした。行き帰りの駅や校内の公衆電話から友人にメッセージを送っていた記憶があります。

今ではいつでもどこでもSNSで連絡を取り、好きなことを発信出来るようになりました。若くして夢を叶える方も増えています。

私も、SNSがきっかけで夢を追いつけています。10年前の2015年、Instagramで「はなまっぷ」というコミュニティを立ち上げました。写真愛好家の方々と日本の花風景の美しさを伝えるための活動をしています。花の名所を訪れて写真を撮ることが好きだったので、同じ趣味の仲間が出会い、写真を楽しむことで花風景の美しさをPRできる場にしたい！という想いで始めました。それが実を結び、これまでに6冊の書籍を出版させていただきました。

出版へのチャレンジは、運営資金を得るための手段でした。コミュニティを始めて2年ほど経った頃、出版社に自ら企画書を送ったのです。プロが撮影した美しい写真とはまた違う、アマチュアの方が楽しみながら撮影した十人十色の写真で作る花風景の書籍として売り込みました。コミュニティのフォロワー数が多いこと、他には無い企画であったことが採用していただけた理由です。



初めての本作りは並大抵のことではありませんでしたが、完成した本は有り難いことに好評でした。それを機にテレビに出演して東海地方の花の名所を案内したり、写真展や写真教室を開催したり、国営公園とイベントを共催したりと。ふと思い描いた夢や目標が、自分でも信じられないほど叶っていきました。好きなことに打ち込めば自ずと夢や目標が見える、そしてそれに向けた行動ができる、だから実現できる。そのことによりやく気づけたのは40歳になる頃でした。

最後に、最新刊を2冊紹介させてください。1冊目は「にっぽんの花地図 神社・お寺の花と桜の絶景（KADOKAWA）」です。日本ならではの花風景だけを集めた風情が感じられる1冊で、外国人旅行者にも好評です。

もう1冊は、初めての自著、「花まるインスタライフ～写真の撮り方からインスタの使い方まで～（ホビージャパン）」です。私がそうであったように、インスタで自分らしさや夢を見つけて、自分に花まるをあげられるような日々を過ごせる人を増やしたいという想いで作りました。

今年も新しい書籍の企画を検討中です。日本の花風景を世界に発信できる場所を目指して、これからも花まるライフを楽しみたいと思います。



「自然と文明を問う 鈴木田俊二展」を終えて

美術部OB O G 会
鈴木田俊二遺作展実行委員会会長 丸山靖弘（四高49年度卒）



四日市高校美術部OB O G 会は、鈴木田俊二先生の没後、自宅のアトリエに残された遺作の整理を順次始め、昨年十一月に四日市市文化会館において「自然と文明を問う 鈴木田俊二展」を開催しました。会期は二日から十日までの8日間

他、ご在職23年間の美術部の活動をまとめた展示物や先生の生涯をたどったスライドショー作成など、多くの方から資料を提供いただくことになり、想定以上の作業量に追われ、その上関連行事の出演者との打ち合わせ、Webサイトからの広報活動も含め、スタッフたちはそれぞれの日常の仕事を抱えながら、本当によく頑張りました。

また、入場整理券を発行するなど、話題となった小説家伊吹有喜さんの講演は、「コーシロ1のいた時代の四高」という演題で、笑いあり涙ありの心洗われるとても素敵な内容でした。続いて行われた座談会なども併せて、満場の方々と共に鈴木田先生を偲ぶことができ、感動と充実の一日となりました。

このように教え子らで企画運営した展覧会は無事に終了しました。ご遺族の皆様や亡き先生にも喜んでいただけたら幸いです。

最後に、ご支援ご協力をいただきました多くの皆様へ深く感謝を申し上げます。ご報告とさせていただきます。

編集後記

同窓会報82号を発行するにあたり、様々な原稿を寄せてくださった皆様方に心より御礼申し上げます。

母校において久しぶりに担任をし、充実した日々を送っておりますが、早いものでもう年度末となりました。今後とも同窓会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。（大森）

同窓生の皆様の様々な思いを載せた会報を今年も無事に発行することができました。

新体制の同窓会は意見も活発に交わされ柔軟でスピーディーに感じます。それを会報に活かしますよう引き続きご協力をお願いします。（小林）



学園だより



「高校生活を振り返って」

3年 伊藤 希乃佳

皆さんはこの四日市高校での3年間を振り返ってどんな感想を抱きますか？

私の中で1番初めに浮かんだ率直な感想は、「楽しかった」です。四高祭、クラスマッチ、修学旅行など思い出に残っている学校行事は沢山ありますが、高校生活を終えた今、楽しかったなと思い返すのは日常の学校生活です。直前に詰め込んで受けるテストも、睡眠不足で受ける授業も、休日の模試で休みの無かった1週間も大変でしたが、学校に行くまでは気乗りしなくても来てみると楽しい事ばかりでした。そう思えたのは四高で出会えた人達のおかげです。四高にはいい人が多いと思います。根から善性の人もいれば、自分の性格を客観的に理解していて表に出す言動を考えている人もいるかもしれません。いい人というのは漠然とした言葉ですが、私はこのどちらも含むものだと思っています。そうした人達に囲まれた環境で3年間過ごせたからこそ、「楽しかった」という気持ちが1番に浮かんだのだと思います。

私達は、高校卒業という節目を迎え、これから新しい環境に身を置く事になります。環境が人を変えるという言葉があるように、環境によって考え方や言動は良くも悪くも変わると思います。常に自分が望む環境にいられるとは限りませんが、それを振り返った時「楽しかった」と思えるよう、私は与えられた環境で最大限努力したいと思います。

最後に、私と仲良くしてくれた人、関わってくれた人へ、本当にありがとうございました。新しい環境で新しく変わった皆に20歳の同窓会で会えることを楽しみにしています。

全国大会への出場を通じて学んだこと

2年 奈須 亮和

私は、令和6年8月2日から8月4日にかけて長崎県佐世保市で開催された令和6年度全国高等学校総合体育大会空手道競技大会 第51回全国高等学校空手道選手権大会に出場しました。

空手道競技には形と組手の2種目があります。私は、6月に開催された三重県総体で形と組手の両方で全国大会への切符をつかみ、この大会に出場することができました。全国大会での結果は、組手は初戦敗退、形も第1ラウンドでの敗退となってしまう、全国の高い壁をつきつけられました。しかし、そう簡単に出場できる大会ではないので、非常に貴重な経験になったと思います。本当は1勝でもできたら良かったのですが、自分よりも強い選手と戦えたことで、もっと強くなって勝つために自分に足りていないものを発見することができ、今後につながる大きな収穫になったと思います。

この大会に向けて自分の苦手な動きを直そうと努めたこと、また、この大会が終わった後も自分が負けてしまった原因を考えたこと、これらは自分との闘いだと思います。相手にだけでなく自分自身にどれだけ挑めるかが大切だと学べました。

最後に、空手道競技は四日市高校の部活動にはないですが、先生方をはじめたくさんの方々大変お世話になりました。高校生活のなかで空手道競技をさせてもらう機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。これからもさらに成長できるように努めていきます。



海外語学研修に参加して

2年 末谷 壮汰

We went to Brisbane and Gold Coast for 10 days in August last year. I have never been to a foreign country before, so everything I saw there was new. I'll never forget the sunset and the great ocean. It was a short visit, but it is something that I will treasure.

今回の語学研修で最も学べて良かったのは、異なる文化や習慣を持つ人たちとどうやって少しでも心の距離を縮めるかを考える力です。短い研修だったので、できる事は全部しようと様々なことに挑戦しました。その中でも、友達と大学のカフェテリアで全く知らない大学生たちに声をかけてみたとき、ほぼ全員が質問した以上のことをフレンドリーに答えてくれたことや、自分から話しかけてくれる人がいたことには文化の違いを強く感じました。自分たちも失礼のないよう気を付けたり、ガイドの方に教えてもらった相手の持ち物を褒めることから会話を始めるなどを心掛けたことが良かったと思います。そういう意味では、文化の違いにかかわらず、人と触れ合ううえで大切なことは同じなのだと気づけました。



1週間で本当に様々な面で成長することができ、新しいことへ飛び込んでいく度胸を持てるようになったと思います。この場をお借りして、ご支援をいただいた同窓会の皆様へ感謝申し上げます。

『日経STOCKリーグ 最優秀賞獲得』

教諭 石川 修也（四高H17年度卒）

四高生の可能性は無限大です。第24回日経STOCKリーグに参加し、最優秀賞を獲得した3人の生徒たちとの活動を通じて、生徒として3年間、教員として9年間、計12年間四日市高校に携わる私も改めてそのことを実感しました。

日経STOCKリーグとは、金融・経済学習コンテストです。中学生、高校生、大学生、専門学校生が参加し、経済や株式投資について学びながら企業や社会を見る目を養い、レポートにまとめます。今回のコンテストには、合計1,462のレポートが応募され、その中から1点が最優秀賞に選ばれました。我々は地元の半導体関連企業を訪問し、詳細なヒアリングを行い、地元の発展を目指す内容が高く評価されました。

そもそものきっかけは、一人の生徒から始まりました。日経新聞の広告を見て、参加したいと私のところにパンフレットを持ってきました。3人グループで参加し、テーマを決めます。生徒たちは半導体に着目し、産業分析をスタートしました。まず文献調査を行いました。そこで初めて半導体の構造や製作工程、産業構造の複雑さを知りました。自力での理解が追い付かず、1年目は挫折しました。しかし、彼らはそこでテーマから逃げるのではなく、探究方法を変えてフィールドワークを実施しました。同窓生との繋がりを活用し、県庁の方にお世話になり、企業訪問や大学のセミナーを聞くなど、あらゆる角度から半導体の産業について分析を行いました。今の経済動向や世界の動きを考えると、生徒たちの半導体をテーマに据えた先見の明や、テーマを変えずに突き進む探究心は非常に素晴らしいと思います。最優秀賞を受賞できたのは、生徒たちの努力と情熱の賜物です。彼らは日々の学習に加え、放課後や休日にも時間を惜しまず取り組みました。その結果、見事に成果を上げることができました。そんな彼らを教員としても尊敬しています。

最優秀賞には副賞としてニューヨーク研修旅行がついていました。国連やニューヨーク証券取引所、日系企業、大学を訪問し、金融・経済の中心地で様々な体験や出会いを経験しました。日本では得られないような視点や貴重な話を聞くことで、彼らの今後の人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。

以上の経験を通じて、生徒たちは金融リテラシーの重要性を理解し、経済の動向を読み解く力を養いました。また、チームワークやコミュニケーション能力も大いに向上しました。特に、困難な局面に直面した際には、互いに支え合いながら問題解決に取り組む姿勢が見られました。

四高生には可能性が溢れています。そんな彼らの可能性を引き出すことが我々教員の使命であり、これから求められる姿勢です。その思いを大事にし、伝統ある四高の更なる飛躍に向けて邁進していきたいと思っています。



同窓生交歓



四高47年度卒同窓会 2024.4.28 都ホテル四日市



ソフトテニス部OB懇親会 2024.6.2 都ホテル四日市



四高40年度喜寿同窓会 2024.11.1 都ホテル四日市



S49卒3年1組 島正明先生叙勲祝賀会 2024.11.1 竹泉亭



四高42年度卒同窓会 2023.10.05 プラトンホテル四日市



四高37年度卒同窓会 2024.10.20 都ホテル四日市



S44卒1年7組 武藤湯の会
2024.10.26 同窓会館



四高45年度卒同窓会 2024.8.17 プラトンホテル四日市



四高56年度卒同窓会 2024.9.21 希望荘



四高48年度卒同窓会
2024.5.4 都ホテル四日市